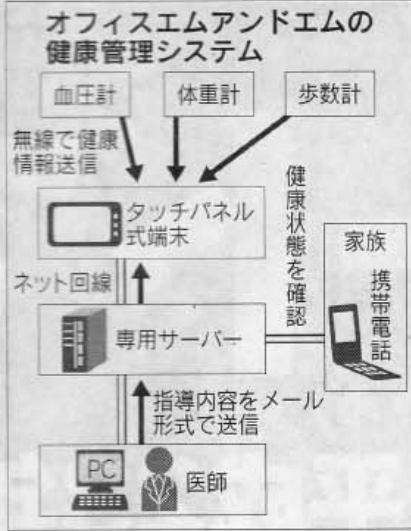


オフィスM&Mと岩手県立大

健康管理システムを開発

ソフト開発のオフィスエムアンドエム(茨城県日立市、白戸幹雄社長)は岩手県立大学などと共同で、血圧計などを使って自宅に居ながら医師と連携して健康管理ができるシステムの開発を始めた。健康状態に関する情報を自宅の端末に集約。インターネット経由で医師が確認し、指導する。複数の健康機器メーカーの製品に対応するオープンなシステムは珍しいという。年内の実用化を目指し、普及を図る。



ネット経由で医師が指導 幅広い製品に対応

システムは血圧計と体重計、歩数計で測ったデータを無線通信でタッチパネル式画面の専用端末に取り込む。自動でグラフ化し、日々の変動を確認できるほか、ネット経

由でかかりつけ医のパソコンと情報を共有。これを基に医師は食事や運動などについてメールで指導する。利用者は指導内容を端末で確認できる。家族が携帯電話で確認することも可能という。同様のシステムはオムロンなど大手が先行するが、サービス提供は自社製機器の利用者に限定している。オフィスエムアンドエムは血圧など医療データを記録・送信する国際規格を採用。システムに制限をかけず、国際規格に沿った健康機器はすべて利用可能にする。

「国内健康機器メーカーの製品の大半は国際規格に準拠した作り。無線機能があれば、開発するシステムに接続できる」と(同社)として、利便性を武器に自社でサービスを提供する予定。また、システム自体を健康機器や情報システム会社に売り込むほか、福祉施設への販売も見込んでいる。システムの設計は組み込みソフトなどのイーアルアイ(盛岡市、水野節郎社長)と分担。実用実験は岩手県立大のソフトウェア情報学部が担当する。産学連携にあたって中小企業支援の財団法人、日立地区産業支援センターの協力を得た。中国語版のシステム開

発も急ぐ。中国・上海と高速鉄道でつながる江蘇省常州市に昨年末に設立した現地法人が担当し、中国に進出している国内

のシステム会社と組み、中国市場開拓を狙う。オフィスエムアンドエムは日立製作所のグループ企業出身の白戸社長が

1998年設立。セキユリティー関連のソフト開発に強みを持つ。2010年3月期の売上高は約1億円。